

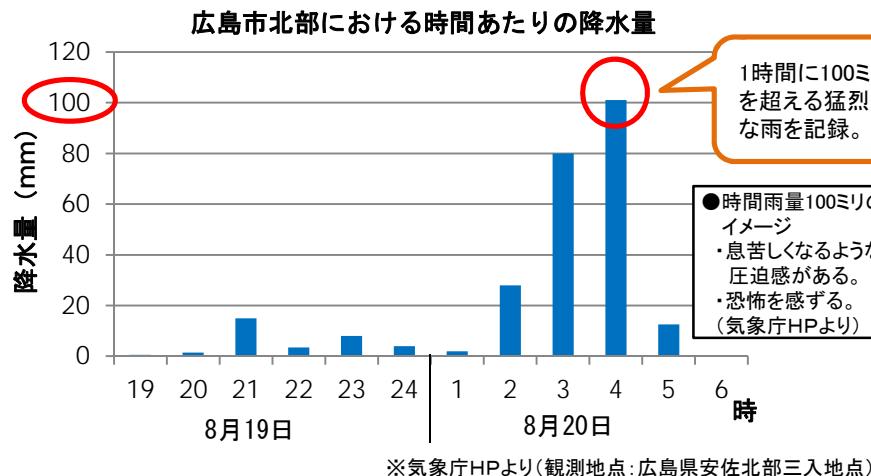
5. 防災・減災への取組強化

(1) 災害発生リスクの高まり（集中豪雨、洪水、土砂災害－②）

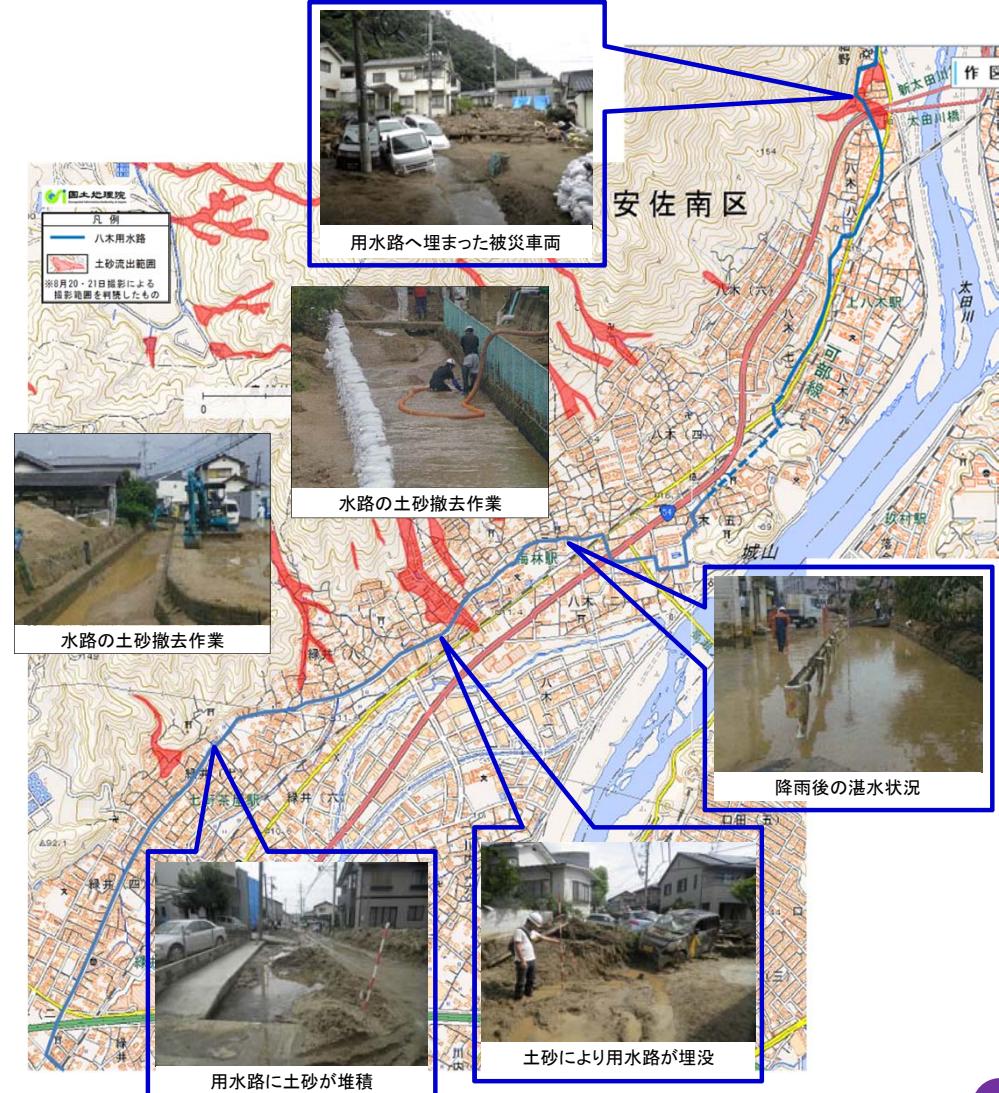
■ 直近の豪雨災害事例（平成26年8月豪雨）

・広島市における土砂災害（平成26年8月20日）

- ・平成26年8月20日未明、広島市北部において1時間に100ミリを超える猛烈な雨が降り、広範囲に渡って土砂災害が発生。
- ・住宅地を流れる農業用用水路が土砂によって閉塞・埋没。



住宅地を流れる農業用用水路の状況



宅地及び農地の被災状況



土砂による家屋への被害



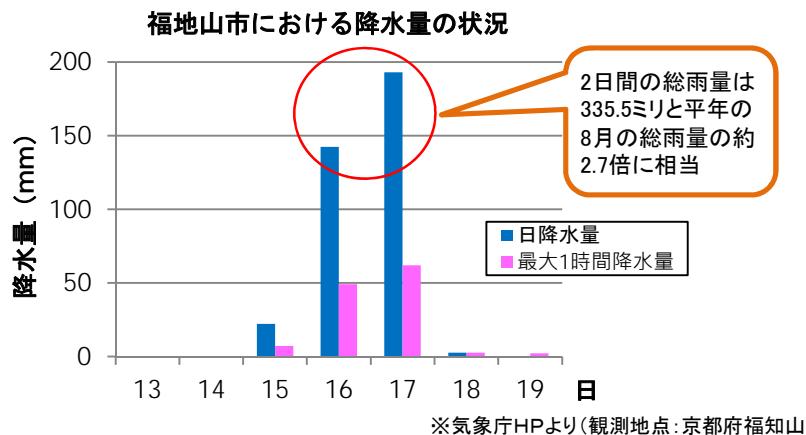
農地への土砂の流入

5. 防災・減災への取組強化

(1) 災害発生リスクの高まり（集中豪雨、洪水、土砂災害－③）

・京都府福知山市における豪雨災害（平成26年8月16～17日）

- ・平成26年8月16日～17日にかけて、福知山市では総雨量300ミリを超える豪雨に見舞われ、由良川流域を中心に広範囲にわたる浸水被害が発生。
- ・由良川の支流の土師川周辺のため池においては、一部で決壊等により下流の農地や工場等への土砂流出があった一方で、貯水池内には大量の土砂や流木の堆積が確認されており、これらの流出防止に対して一定の効果も見られる。



写真：「平成26年8月16日～17日 由良川出水報告（第一報）」（福知山河川国道事務所）

由良川支流の土師川周辺のため池の被災状況

宮ノ下池（堤高：5m 貯水量：4,000m³）



塩津新池（堤高：6.7m 貯水量：10,000m³）



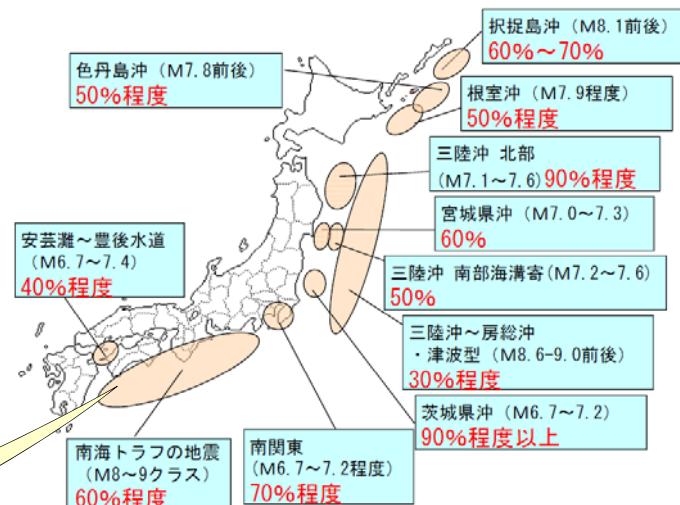
塩津古池（堤高：4.8m 貯水量：3,200m³）



5. 防災・減災への取組強化

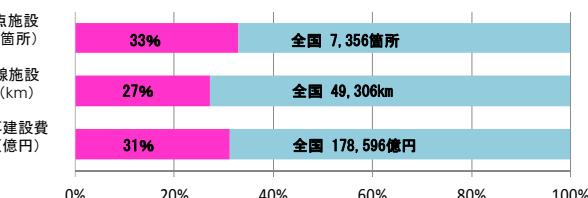
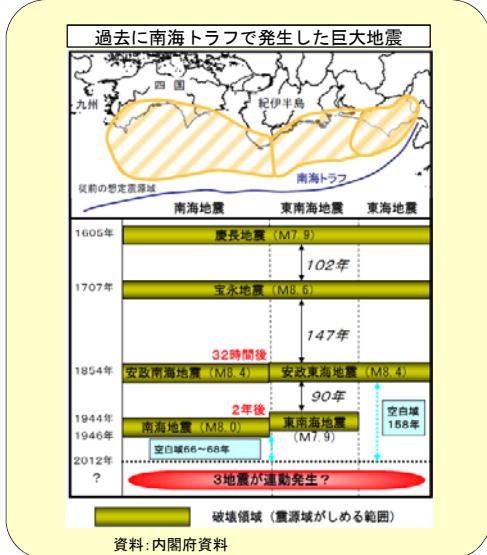
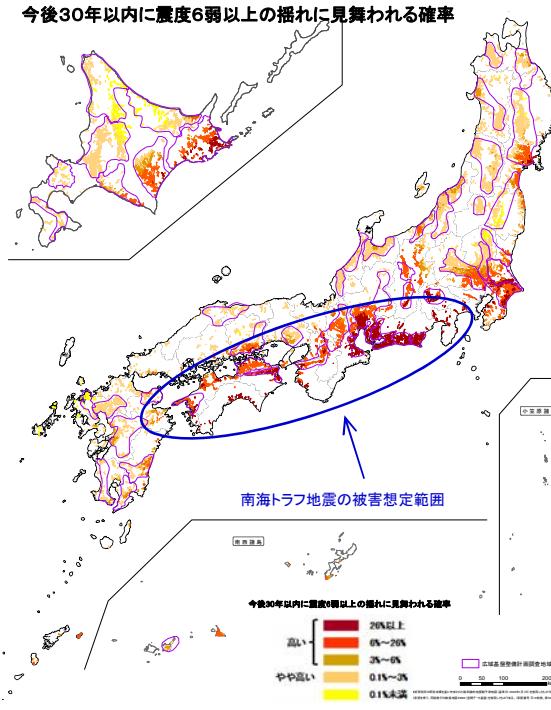
(1) 災害発生リスクの高まり（大規模地震、津波）

- ・南海トラフで M 8～9 クラスの大地震が発生する可能性は、今後 30 年以内に 60～70% と想定。



- ・南海トラフ地震防災対策推進指定地域には、全国の農業水利ストックの 3 割が存在。

全国地震予測地図に対応した基幹的農業水利施設の分布状況



5. 防災・減災への取組強化

32

(2) 国土強靭化の理念の実現ー①

- 本年6月に閣議決定された「国土強靭化基本計画」は、国土強靭化に関する国の他の計画等の指針となるもの。
- 同基本計画で示された理念を踏まえ、平時における食料供給機能の確保に加えて、いかなる災害が発生しても、住民の命を守るとともに農業生産活動等への致命的な影響を回避できるよう、農業農村整備における国土強靭化の理念を明確にし、効率的な防災・減災対策を推進する必要。

国 土 強 靭 化 基 本 計 画 に お け る 理 念 ・ 基 本 方 針

【理 念】

●基本目標

- ① 人命の保護が最大限図られること
- ② 国家及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること
- ③ 国民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
- ④ 迅速な復旧復興

●災害時でも機能不全に陥らない社会経済システムを平時から確保し、地域住民の生命・財産、産業競争力、経済成長力を守り、国の経済成長の一翼を担う

【基本方針】

- ① 重点化・優先順位付け
- ② ハード・ソフトの効果的組合せ
- ③ 既存施設の有効活用
- ④ 地域共同力の活用 等

区 分	た め 池	排水機場、排水路	農 道	農村コミュニティ
本来機能・目的	農業用水の安定的確保	農地の排水条件の改善	通作及び農産物の流通条件の改善	農地や農業用水路等の維持・保全と質的向上
本来機能以外の国土強靭化の視点に立った機能・取組の例	<ul style="list-style-type: none">・空き容量の活用による洪水調節・土砂・流木の下流への流出防止・有事の際の水の他用途への供給・耐震化等による下流地域の安全性確保・施設の監視強化、ハザードマップの作成等による減災対策 等	<ul style="list-style-type: none">・市街地を含めた地域排水機能・豪雨前の事前排水 等	<ul style="list-style-type: none">・災害時の避難道としての機能・被災した国道等に代わる支援物資等の輸送経路等	<ul style="list-style-type: none">・コミュニティ機能の向上による災害対応力の向上ア) 共同活動を通じたコミュニティ機能の向上イ) 共助による防災・減災対策、被災後の復旧活動の実施 等